地質学雑誌　第123巻　第3号（通巻1458号）付録　平成29年3月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.20 No.3 March 2017

一般社団法人日本地質学会第9回総会開催について

第 9 回総会を下記の次第により開催いたします．なお，議案については，4 月 8 日の理事会において確定いたしますので，とりあえず予定としてお知らせいたします．確定版は本誌 4 月号に掲載いたします．また，代議員には直接メールでご案内いたします．

（日本地質学会　執行理事会）

2017年5月20日（土）12:15 ～ 13:15
会場　幕張メッセ　国際会議場
（千葉市美浜区中瀬　※ JpGU-AGU Joint Mettin2017 会場内）

総会議事次第

1．議長選出
2．開会
3．議案（予定）
　第 1 号議案　2016 年度事業報告・決算報告
　第 2 号議案　2017 年度事業計画
　第 3 号議案　2017 年度予算案
　第 4 号議案　選挙規則の変更
　第 5 号議案　名誉会員の選出
4．閉会

1．定款 20 条により，本総会は役員ならびに代議員による総会となります．代議員には，総会開催通知とともに総会に必要な資料等を別途お送りいたします．ご都合で欠席される方は，定款 28 条第 1 項にもとづき，議決権行使書および議決権の代理行使（委任状）などにより，総会に出席したものとして議決権を行使することができます．

2．正会員は，総会に陪席することができます．ただし，総会規則 12 条 3 項により，許可のない発言はできません．

日本地質学会*News*

Vol.20 No.3 March 2017

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

案内 ……2
日本学術会議公開シンポジウム「地質地盤情報の共有化を目指して－安全安心で豊かな社会の構築に向けて－」/第16回重金属類・残土石処分地・廃棄物処分地診断に関わる地質汚染調査浄化技術研修会/2017西太平洋堆積学会議のお知らせ

公募 ……3
海洋研究開発機構地球内部物質循環研究分野研究員もしくは技術研究員募集/海洋研究開発機構数理科学・先端技術研究分野研究員もしくは技術研究員募集

各賞・助成 ……3
2017年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「進歩賞」候補者の募集

CALENDAR ……4

TOPIC ……5
2018年日本地質学会創立125周年を記念して：トリビア学史6　女性地質研究者の嚆矢（矢島道子）

2017年「地質の日」行事 ……6
第8回惑星地球フォトコンテスト表彰式/街中ジオ散歩in Tokyo「国分寺崖線と玉川上水」徒歩見学会/大地のかけらを探せ！！ぼくのわたしの石の標本作り：地質の日 in 白山手取川ジオパーク/中部支部各地の博物館等の催し/地質の日観察会「城ヶ島と三崎の地盤隆起：1923年大正関東地震の地殻変動」/地質情報普及講座「深海から生まれた城ヶ島」

第8回惑星地球フォトコンテスト審査結果（速報）……7

Island Arc Vol.26 Issue 2日本語要旨/ **Island Arc編集事務局の連絡先変更について** ……8

支部コーナー ……10
関東支部：2017年度総会・地質技術伝承講演会開催のお知らせ/関東支部：火山灰ミニ巡検実施報告

院生コーナー ……11
はじめての研究航海：KR16-14航海乗船記（本多睦美）

表紙紹介 ……12
竹富島の石塀にみられるチャート（貴治康夫）

学会記事 ……13
日本地質学会2016年度第3回理事会議事録/2016年度第6回執行理事会議事録/2016年度第7回執行理事会議事録

出版物在庫案内 ……17

入会申込書 ……18

巻末　会費口座振替依頼書

事務局営業カレンダー

お休み

3月 March

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

4月 April

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

日本学術会議公開シンポジウム「地質地盤情報の共有化を目指して－安全安心で豊かな社会の構築に向けて－」

わが国の国土の地質地盤は，諸外国と比べて極めて複雑で，変化に富んでいる．したがって，社会インフラ建設において利用される地質地盤情報は，国民にとって必要不可欠な情報であり，国民の共有財産でもある．しかしながら，現状では，社会インフラを造るあるいは設計するための地質地盤情報が情報インフラとして必ずしも整備されておらず，地質地盤情報の記録・公開・共有化が強く望まれている．

このような現状に鑑み，本シンポジウムでは，安全安心で豊かな社会の構築　に向けて，国土の基本情報としての地質地盤情報のあるべき姿と地下空間の利活用における安全性の向上について総合的な討論を行う．

主催：日本学術会議土木工学・建築学委員会インフラ健全化システム分科会
後援：国土交通省，経済産業省，土木学会，日本建築学会，地盤工学会，日本不動産学会，日本地質学会，全国地質調査業協会連合会（予定）

日時：平成29年4月27日（木）13:30 ～ 17:40
場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木）
参加費無料，参加申込不要
プログラム（予定）
13:30　開会挨拶：依田照彦（日本学術会議連携会員，早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）
13:35　基調講演：地質地盤情報の共有化について（仮）栗本史雄（日本学術会議特任連携会員，産業技術総合研究所名誉リサーチャー，地質地盤情報の活用と法整備を考える会代表）
14:35　基調講演：地下利用に関する国の審議状況（仮）大西有三（関西大学環境都市工学部客員教授，京都大学名誉教授）
15:35－15:45（休憩）
15:45　パネルディスカッション：
モデレーター：嘉門雅史（日本学術会議連携会員，京都大学名誉教授）
パネリスト：飯尾　潤（政策研究大学院大学教授），宇賀克也（東京大学法学政治学研究科教授），北田奈緒子（一般財団法人地域地盤環境研究所　研究開発部門長），小林潔司（日本学術会議連携会員，京都大学大学院工学研究科教授），
17:35　閉会挨拶：家田 仁（日本学術会議連携会員，政策研究大学院大学教授）
17:40　閉会
詳しくは，http://www.scj.go.jp/ja/event/index.html

第16回重金属類・残土石処分地・廃棄物処分地診断に関わる地質汚染調査浄化技術研修会

主催：NPO法人 日本地質汚染審査機構
共催：地質汚染診断士の会・日本地質学会環境地質部会・IUGS-GEM日本支部・社会地質学会
目的：大地に住む私達にとって直接健康被害に結びつくのは，地表に移流する汚染地下空気塊（Plume）と汚染飲用地下水です．

汚染地下空気塊は，１日の間でも気圧変動で地表への流出量やその濃度がことなります．台風などの低気圧が襲った時には，その現象は顕著であります．最終処分場跡地周辺・汚染残土置場跡地・汚染工場跡地などの上にある居住空間での活動中・睡眠中，また同じ跡地上の公園や学校などでの遊園中・学習中，同じ環境での労働中に，有害ガスからなる汚染地下空気塊が人間の健康をおかしている可能性があります．また，アスベスト粉塵のような有害粉塵（有害ダスト）も汚染地下空気塊と同じ挙動を示します．

また，災害時や有害物質による地表水のテロ攻撃などを考慮すれば，飲料水の地下水依存率を高めることは今日的課題であります．地下水汚染の阻止・浄化の推進は自明です．これら地下空気汚染・地下水汚染の汚染源のほとんどが，地質汚染科学では土壌汚染を含む地層汚染です．この地層汚染を中心とした地質汚染機構解明と浄化が，古くて新しい早急の社会的課題です．

この研修は，地質汚染科学調査で最も重要である単元調査法に基づく科学的・経済的な調査・対策ができる地質汚染診断士を養成する研修会です．土壌汚染対策法に基づく調査・対策（調査過程で汚染原因者を特定できなく，汚染を見落とす可能性があり，掘削除去が中心の高額な対策手法となることが多い）だけに通用する土壌汚染調査技術管理者資格（一般的な汚染調査・不動産鑑定などに伴う地質汚染調査は対象外）とは異なり，地質汚染機構を解明し，効果的かつ経済的な対策を立案するための技術者を養成することを目的としております．

また，NPO 日本地質汚染審査機構では，宅地を含めた地質環境に関わる総合的な理学診断と対策を行っていく一環として，これまでの地質汚染診断士・地層液流動化診断士のほかに，宅地に関わる地盤沈下阻止地下水利用，津波減災，活断層減災，地すべり・土砂災害・水害減災，放射性物質地質汚染，火山災害減災にかかわる各診断士のほか，それらを総合的に管理する総合宅地理学診断師の資格認証事業も行っております．そして，その認証事業も法務局に事業登記されております．

当法人では，国民の立場にたつ各診断士と，複合的な総合宅地理学診断師をともなう「land doctor」の養成を目指しております．

日時：2017年5月1日（月）～ 5月4日（木）
主会場：日本地質汚染審査機構 関東ベース ン実習センター（千葉県香取市）
会費：会員 50,000円・非会員 60,000円・学生 15,000円（宿泊費は含まれませんが，昼食費は含みます）全日程参加できない方は受講を希望する１コマからも参加できます．4,000円/1講 座，8,000円/半 日，16,000円/1日にて受講可能です．（要問い合わせ）
定員：30名（定員になり次第，締切ります）
申込・問合せ先：NPO法人日本地質汚染審査機構
Tel：043-213-8507　Fax：043-213-8508
E-mail：office@npo-geopol.or.jp
受講希望者は，氏名・所属・連絡先（電話，Fax，Eメール），性別，年齢についてお知らせ下さい．
最新の情報は，NPO法人日本地質汚染審査機構のホームページをご参照下さい．
http://www.npo-geopol.or.jp/index.htm

2017西太平洋堆積学会議のお知らせ

2006年に福岡で開催された第17回国際堆積学会議（ISC）をきっかけに始まりました西太平洋堆積学会議（Western Pacific Sedimentology Meeting）の2回目の会議が，今年6月12 ～ 17日（会議：6/12-13，巡検：6/14-17）に韓国光州市で開催されることになりました．講演要旨の締め切りは4月30日です．日本の堆積学・堆積地質学の結果を広める良い機会と思いますので，地質学会会員の皆様，周辺の皆様の積極的な参加をお願いいたします．光州は韓国の「味の都」とも言われる韓国内でも食べ物のおいしいところです．また，巡検も韓国西岸の潮間帯の堆積作用を中心に，これと白亜紀の湖成層あるいは第四紀の火山砕屑岩のいずれかの2コースが用意されています．韓国で堆積学とおいしい食事を存分に楽しみましょう．

なお，会議のホームページは現在立ち上げ中であり，ファーストサーキュラーは日本堆積学会ホームページ（http://sediment.jp/）に掲載しております．講演要旨の投稿方法などはセカンドサーキュラーでお知らせする予定です．また，ご不明の点や特別セッションの希望などがあれば，産総研・池原までお知らせください．

日時：2017年6月12日（月）～17日（土）
（会議：6/12-13，巡検：6/14-17，6/11夕方：アイスブレーカー）
場所：韓国光州市（Gwangju, Korea）
Kimdaejung Convention Center
主な予定セッション：
Geohazards and sedimentation
Quaternary Sedimentology and Paleoclimates
Sedimentation and Basin Tectonics
Depositional Processes, Sedimentary Facies, and Strata Formation
Volcano-sedimentology
Sedimentological Geoheritage
参加費：
会議　200,000ウォン（19,940円）
巡検　潮間帯+白亜系500,000ウォン（49,850円）
潮間帯+火山砕屑岩560,000ウォン（55,832円：済州島までの片道航空券込）
重要な日程：
Abstract submission deadline: 30 April, 2017
Registration deadline for meeting and field excursion: 30 April, 2017
Third circular: 15 May, 2017
Meeting dates: June 12-13, 2017 (Monday-Tuesday)
Venue: Kimdaejung Convention Center, 30 Sangmunuriro, Seo-gu, Gwangju, [502-828], Korea
Field trip: June 14-17, 2017 (Wednesday-Saturday)
国内連絡先：池原　研（産総研・地質情報）
k-ikehara@aist.go.jp
詳しくは，http://sediment.jp/

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

海洋研究開発機構地球内部物質循環研究分野研究員もしくは技術研究員募集

募集内容：海洋研究開発機構 地球内部物質循環研究分野では，第3期中期計画を実施するにあたり，対象の研究分野に従事する任期制職員（研究員もしくは技術研究員）を1名公募いたします．
研究内容：地殻・マントルの物質循環とその機構・ダイナミクスに関する研究開発を，地質学，岩石学，地球化学，地球物理学の観測的手法に加え，物理化学フォワードシミュレーション，ビッグデータ解析，機械学習の考え方や手法を取り入れて進める．＜関連する専門分野＞地質学，岩石学，地球化学，地球物理学，情報数理科学など
応募資格：
研究員：当該研究に関連する分野の博士号取得者および優れた研究業績を有する者．
技術研究員：当該研究もしくは研究開発に関連する分野の博士号取得者および優れた研究業績を有する者．
※国籍・性別を問いません．
勤務地：横須賀本部（神奈川県横須賀市夏島町2-15）
雇用期間：平成29年8月1日～平成34年3月31日　※1回の雇用期間を最長5事業年度とし，以降更新は行いません．
応募締切：平成29年4月28日（金）必着
問い合わせ先：〒237-0061　神奈川県横須賀市夏島町2-15
国立研究開発法人海洋研究開発機構
人事部　人事第2課　採用担当
TEL 046-867-9415　FAX 046-867-9095
E-mail: jinji2@jamstec.go.jp
詳細は，下記を参照して下さい．
http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/d_seg20170428.html

海洋研究開発機構数理科学・先端技術研究分野研究員もしくは技術研究員募集

募集内容：募集内容 海洋研究開発機構 数理科学・先端技術研究分野では，第3期中期計画を実施するにあたり，対象の研究分野に従事する任期制職員（研究員もしくは技術研究員）を1名公募いたします．
研究内容：1）海底地形変動と流体移動のメカニズム解明およびそれらがプレートのカップリングに及ぼす影響について物理モデルとシミュレーションによって評価する研究
2）地震発生帯の実態解明研究から「非地震発生帯」の特定と裏付けに関する研究
応募資格
研究員：当該研究に関連する分野の博士号取得者および優れた研究業績を有する者．
技術研究員：当該研究もしくは研究開発に関連する分野の博士号取得者および優れた研究業績を有する者．
※国籍・性別を問いません．
勤務地：横浜研究所　神奈川県横浜市金沢区昭和町3173-25
雇用期間：平成29年7月1日～平成34年3月31日　※1回の雇用期間を最長5事業年度とし，以降更新は行いません．
応募締切　平成29年5月2日（火）必着
問い合わせ先：〒237-0061　神奈川県横須賀市夏島町2-15
国立研究開発法人海洋研究開発機構
人事部　人事第2課　採用担当
TEL 046-867-9415　FAX 046-867-9095
E-mail: jinji2@jamstec.go.jp
詳細は，下記を参照して下さい．
http://www.jamstec.go.jp/recruit/details/mat20170502.html

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内いたします．

2017年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「進歩賞」候補者の募集

1. 三宅賞
対象：地球化学に顕著な業績を挙げた研究者
表彰内容：賞状，副賞として賞牌および賞金30万円，毎年1名
2. 進歩賞
対象：1977年4月2日以降に生まれた方で，地球化学の進歩に優れた業績を挙げ，将来の発展が期待される研究者
表彰内容：賞状および賞金10万円，毎年1～2名
3. 応募方法：地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に，略歴・推薦理由・研究業績などを記入し，主な論文
三宅賞：10編程度，進歩賞：2編程度1を添えて，下記のあて先へ送付して下さい．応募書類等は三宅賞及び進歩賞選考のためにのみ用いられます．
4. 締切日：2017年8月31日（木）必着
地球化学研究協会ホームページ：
http://www.geochem-ass-miyake.com
応募書類送付先：〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託課
（公益信託）地球化学研究基金　担当者
問合せ：電子メールで下記アドレスへお願いします．
E-mail：hirose45037@mail2.accsnet.ne.jp
または　eitaro1939@yahoo.co.jp

CALENDAR

2017. 4 〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2017年

4月　April

★第8回惑星地球フォトコンテスト表彰式
4月8日（土）12:45 〜 13:45
場所：北とぴあ901会議室（東京都北区王子）
http://photo.geosociety.jp/

○日本学術会議公開シンポジウム／第3回 防災学術連携シンポジウム 熊本地震 追悼・復興祈念行事「熊本地震・1周年報告会」
4月15日（土）11:00 〜 18:20
場所：熊本県庁本館地下大会議室
参加無料
http://janet-dr.com/

（後）特別展「石は地球のワンダー 〜鉱物と化石に魅せられた2人のコレクション〜」
4月22日（土）〜 6月4日（日）
場所：大阪市立自然史博物館
※「47都道府県の石（岩石・鉱物・化石）」展を同時開催
http://www.mus-nh.city.osaka.jp/index.html

（後）日本学術会議公開シンポジウム「地質地盤情報の共有化を目指して－安全安心で豊かな社会の構築に向けて－」
4月27日（木）13:30 〜 17:40
場所：日本学術会議講堂
参加費無料
http://www.scj.go.jp/ja/event/index.html

5月　May

○第16回重金属類・残土石処分地・廃棄物処分地診断に関わる地質汚染調査浄化技術研修会
5月1日（月）〜 5月4日（木）
主会場：日本地質汚染審査機構 関東ベースン実習センター（千葉県香取市）
http://www.npo-geopol.or.jp/index.htm

○JpGU-AGU Joint Meeting 2017
5月20日（土）〜25日（木）
会場：千葉県 幕張メッセ
http://www.jpgu.org/meeting_2017/

6月　June

○西太平洋堆積学会議2017
6月12日（月）〜 17日（土）
場所：韓国光州市
12-13日　個人講演，14-17日　巡検（潮間帯+白亜系あるいは潮間帯+火山砕屑岩のいずれか）
投稿締切：4月30日（日）
http://sediment.jp/08related/2017WPSM.html

○IGCP630 Annual Symposium (2017) “Permian-Triassic climatic & environmental extremes and biotic responses”
6月14日（水）〜 16日（金）
場所：東北大学
https://amarys-jtb.jp/icgp630/

○地質学史懇話会
6月17日（土）13:00〜17:00
場所：北とぴあ 8階804号室（JR京浜東北線王子駅下車3分）
平山　廉「カメの始まりから2億年の歴史を語る」（仮）
山田俊弘「17世紀地球論の発生と展開」（仮）

7月　July

（共）第54回アイソトープ・放射線研究発表会
7月5日（水）〜 7日（金）
場所：東京大学弥生講堂（東京都文京区弥生）
http://www.jrias.or.jp/

○ International Conference on Geology, Mining, Mineral and Groundwater Resources of the Sub-Saharan Africa: Opportunities and Challenges Ahead
7月11日（火）〜13日（木）
場所：ザンビア共和国、リビングストン
http://mines.unza.zm/conference/

8月　August

（後）科学教育研究協議会第64回全国研究大会
8月7日（月）〜 9日（水）
場所：広島なぎさ中学高等学校
http://kakyokyo.main.jp/

○第10回白亜紀国際シンポジウム（10th ISC 2017）
8月21日（月）〜24日（木）
場所：オーストリア・ウィーン UZA Ⅱ（Universitätszentrum Althanstrasse）
https://10cretsymp.univie.ac.at/home/

○第71回地学団体研究会総会（旭川）
8月25日（金）〜 27日（日）
場所：北海道旭川市大雪クリスタルホール・神楽市民交流センター
https://sites.google.com/view/soukai2017

9月　September

○第34回歴史地震研究会（つくば大会）
9月15日（金）〜 17日（日）
場所：つくばイノベーションプラザ
講演申込締切：5月31日（水）
http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/menu7.html

★日本地質学会第124年学術大会（2017愛媛大会）
9月16日（土）〜18日（月）
場所：愛媛大学理学部ほか（松山市文京）
講演申込受付：5月末頃〜 7月5日（水）

（共）第61回粘土科学討論会
9月25日（月）〜 27日（水）
会場：富山大学 五福キャンパス共通教育棟
http://www.cssj2.org/

10月　October

（後）第4回Slope tectonics 2017
10月14日（土）〜18日（水）
場所：京都大学宇治キャンパス黄檗プラザ
http://www.slope.dpri.kyoto-u.ac.jp/SlopeTectonics2017/st2017.html

（共）第15回国際放散虫研究集会（15th InterRad）
10月23日（月）〜27日（金）（研究集会）
20日（金）〜22日（日）（プレ巡検）
28日（土）〜31日（火）（ポスト巡検）
場所：新潟大学など
http://www.radiolaria.org/interrad/

○IGCP608 Asia-Pacific Cretaceous Ecosystems第5回国際研究集会
10月26日（木）〜27日（金）
場所：韓国済州島 済州国際コンベンションセンター
http://igcp608.sci.ibaraki.ac.jp/

TOPIC

～2018年日本地質学会創立125周年を記念して～

トリビア学史　6　女性地質研究者の嚆矢

矢島道子（日本大学文理学部）

はじめに

2015（平成27）年発行の日本地質学会・会員名簿では，3851名の会員中，女性は373名で1割弱である．地質学会で女性を初めて見かけるようになったのは，1943（昭和18）年のことであるが，実は，その前に日本の化石を研究した外国人女性と日本人女性がいる．概略を記したい．

マリー・ストープス

日本の化石を最初に研究した女性はイギリス人のマリー・ストープス（Marie Stopes　1880-1958）である（矢島，2007）．ストープスは，1902（明治35）年ロンドン大学（UCL）より，植物化石の研究で，女性として初めて理学博士を取得した．1903（明治36）年，さらに，ミュンヘン大学のゲーベル（Karl Eberhardt von Goebel 1855-1932）教授のもとに留学して研究を続けた．ゲーベル教授は当時，裸子植物研究の第一人者であった．ここで，銀杏の研究のために日本から留学してきた藤井健次郎（1866-1952）と出会う．ストープスは1904（明治37）年にマンチェスター大学の講師となった．理科系ではマンチェスター大学初の女性講師であった．藤井はマンチェスターのストープスを訪れていたが，東京帝国大学理学部の植物学教授への就任の打診を受けて帰国した．1907（明治40）年，ロンドン王立協会の奨学金をえて，ストープスは藤井を追う形で日本にやってくる．被子植物の花の化石研究が目的であった．北海道の炭田を地質調査し，サンプリングしている．1910（明治43）年，ストープスと藤井の共著論文『白亜紀植物の構造と類縁に関する研究』がロンドン王立協会の雑誌に発表された．ここには，日本の菌類，シダ，球果，針葉樹，被子植物果実17種が記載されている．

ストープスは，その後バースコントロールの運動家となり，欧米では有名である．

保井コノ

日本人女性で最初に理学博士を取得した保井コノ（1880-1971）は植物学者といわれているが，彼女の学位論文のテーマは「日本産の亜炭，褐炭，瀝青炭の構造について」であり，北海道・石狩炭田地域の柱状図もたくさん書かれているなど，実際には植物化石の研究者であった．保井は香川県の生まれで，1898（明治31）年 香川県師範学校を卒業した後，女子高等師範学校理科に入学した．1902年に同校理科を卒業し，数年の女学校教諭をへて，1905（明治38）年，女子高等師範学校研究科に入学した．最初は動物学を志していたが，1906（明治39）年に 植物学とくに細胞学の研究に移り，1907年女子高等師範学校研究科を修了し，同校助教授となる．1914（大正3）年アメリカに留学し，1915（大正4）年，ハーバード大学のジェフレー（Edward Charles Jeffrey 1866-1952）教授に師事して石炭の研究を開始した．1916（大正5）年に帰国し，前掲の藤井教授のもとで石炭の研究を継続した．1927（昭和2）年，東京帝国大学より理学博士号を取得した．

日本地質学会では

日本地質学会では，1943（昭和18）年7月25日に，北海道大学で行われた地質学会50周年記念式典の写真に，3名の女子学生が写っている．この3名が，最初の女性地質学者とされている．北海道帝国大学の地質学教室を1944（昭和19）年9月に卒業した，井上（都城）タミ（生年不明），藤原隆代（1917-1992），米満　信（生没年不明）の3名である．

写真　地質学会50周年記念式典（1943年7月25日，北海道大学）．前から3列目左端から井上，藤原，米満（「日本の地質学100年」より）．

井上タミは，1944年に「石綿の性質について」を発表し，東京女子高等師範学校に就職し，東京大学の地質学教室で研究を続けた．都城秋穂との共著論文も数編ある．

藤原隆代は，1936（昭和11）年に東京女子師範学校2部を卒業し，小学校教師を経た後，1940（昭和15）年に東京高等師範学校副手に任用された．その後，北海道大学理学部地質学教室の聴講生をへて，1945（昭和20）年，北海道大学理学部地質鉱物学教室の副手に採用された（大森，1992）．1944年には「蛇紋岩に関するニッケル鉱床の一例について」についての発表であったが，その後化石に含まれる有機物の研究に転じ，1968（昭和43）年には「化石有機物の古生化学的研究」で日本地質学会より学会賞を受賞した．

米満　信は，東芝電気株式会社に就職したことが知られている．

まとめ

上記3名の後，少しずつ女性研究者は増加してきた．初期の女性研究者の来歴を調べると，研究を認めてくれる組織がなかなか見つからず，所属先を転々としていることがよくわかる．大変な努力の積み重ねであったと思う．なお，それぞれの研究者の生没年等，入手できていない情報も多いので，どなたかご存知の方は一報いただければ幸いである．

文　献

大森昌衛，1992．藤原隆代さんのご逝去を悼む．地質学雑誌，98（7），p711.

矢島道子，2007．マリー・ストープスの2つの顔：日本の植物化石研究事始め．大学出版部協会［編］，ナチュラル・ヒストリーの時間，20-23，大学出版部協会.

日本地質学会編，1993，日本の地質学会100年:日本地質学会100周年記念．日本地質学会，706p

5月10日は 地質の日

2017年の「地質の日」学会関連のイベントをご案内します．
イベントの情報は，学会HP< http://www.geosociety.jp>で
随時更新していますので，あわせてご覧下さい．

★フォトコンテスト表彰式

第8回惑星地球フォトコンテスト表彰式

日時：2017年4月8日（土）12:45 ～ 13:45
会場：北とぴあ901会議室（東京都北区王子）
入選作品の展示も行います！
▶フォトコンテストのサイト　http://www.photo.geosociety.jp/

★街中ジオ散歩 in Tokyo

「国分寺崖線と玉川上水」徒歩見学会

身近な地質とその地質に由来する地形について，それらを利用してきた先人から現在の私たちまでの営みを，専門研究者の案内で楽しく学ぼうという企画です．今回は,都内でも有数の湧水地として知られている国分寺崖線と江戸時代から現代にいたるまで，生活上水を供給し続けている玉川上水を見学します．また，武蔵国分寺跡も見学し，武蔵国分寺の歴史についても学びます．初夏の清々しい空気の中を，楽しく“ジオ散歩”したいと思います．

主催：一般社団法人日本地質学会，一般社団法人日本応用地質学会
後援：国分寺市，小平市，一般社団法人東京都地質調査業協会
日時：2017年5月14日（日）9:45 ～ 16:00小雨決行（予定）
見学場所：東京都国分寺市，小平市（国分寺崖線，玉川上水）
案内者：山崎晴雄氏（首都大学東京名誉教授），中山俊雄氏（東京都土木技術支援・人材育成センター）
会費：高校生以上・一般：1,500円，小・中学生：500円（保険代，入場料含む）
（注）参加費は，当日現金をご持参ください．昼食は各自ご用意下さい．途中，一部電車での移動（鷹の台駅→国分寺駅）があります．運賃は各自負担となります．
集合場所・時間：西武国分寺線 鷹の台駅　9:45集合
見学コース（予定）：10:00西武国分寺線鷹の台駅（出発）→玉川上水（露頭観察）→ふれあい下水道館（昼食）→鷹の台駅→（電車移動）→国分寺駅→真姿の池湧水群→武蔵国分寺跡資料館→東山道武蔵路跡→姿見の池→JR西国分寺駅16:00頃解散
募集人数：30名
対象：小学生以上（主催団体の会員の申込も可）．ただし，小・中学生の方は保護者の同伴をお願いします．また，本行事は一般向け普及行事ですので，非会員の一般市民の参加を優先します．定員を超えた場合，会員は若干名 とさせていただきます．
申込受付期間：2017年4月1日（土）～ 4月10日（月）（申込者多数の場合は抽選を行います．結果は4月中に郵送で全員にお知らせします）
申込方法：学会HPの申込み専用フォームまたは，FAXにてお申込み下さい．
【申込み専用フォーム】
http://www.photo.geosociety.jp/geosanpo2017.html
【FAXの場合】記入事項1 ～ 6をすべて記入願います．メール等がない場合は“なし”とご記入下さい．1．氏名，2．自宅住所（郵便物を受け取れる住所），3．携帯等電話番号，4．メールアドレス，5．生年月日，6．性別 （注）小・中学生の申込の際は，1, 5, 6について保護者の情報も明記して下さい．
申込・問い合わせ先：一般社団法人日本地質学会（担当　細矢）
電話：03-5823-1150　FAX：03-5823-1156
メール：main@geosociety.jp
HP：http://www.geosociety.jp
＊学会HPにて情報を更新いたします．そちらもあわせてご確認下さい．

★中部支部

大地のかけらを探せ!! ぼくのわたしの石の標本作り：地質の日 in 白山手取川ジオパーク

主催：金沢大学理工学域自然システム学類地球学コース・白山手取川ジオパーク推進協議会
後援：日本地質学会中部支部
日時：2017年5月13日（土）10:00 ～ 12:00（集合9:45 ～）
集合場所：道の駅しらやまさん（石川県能美市和佐谷町200）
対象：小学校4年生～高校生の親子（子どものみでも参加可）
定員：20組（先着順）※申込締切：5月9日（火）17:00
参加費：500円（標本箱代，保険代など）
内容：白山手取川ジオパークは，恐竜の化石が出ることなどで有名です．しかし，その大地は，恐竜が生活するずっと以前にできていました．恐竜が生活する前の大地，恐竜の時代の大地，そして，今私たちの目の前にきらめく白山を作っている大地，それぞれの大地のかけらを河原で探して，自分だけの標本を作りましょう！
申込先・問い合わせ：白山手取川ジオパーク推進協議会
〒924-8688　白山市倉光二丁目１
TEL：076-274-9564　　FAX：076-274-9546
E-mail：geopark@city.hakusan.lg.jp
WEBサイト：http://hakusan-geo.main.jp

★中部支部

各地の博物館等の催し

◆とやまの自然探検「神通川の石ころ観察会」/「常願寺川の石ころ観察会」
後援：日本地質学会中部支部
「神通川の石ころ観察会」
日時：2017年4月29日（土）13:30 ～ 15:30　雨天・増水時中止
「常願寺川の石ころ観察会」
日時：2017年5月13日（土）13:30 ～ 15:30　雨天・増水時中止
主催：富山市科学博物館
いずれも参加無料，要申込
http://www.tsm.toyama.toyama.jp/

◆長岡市立科学博物館：特別展/企画展
後援：日本地質学会中部支部
・ミニ企画展：アルバートサウルスの前・後肢化石（レプリカ）
　日程：2017年4月4日（火）～ 23日（日）
・GW特別展示：ハルキゲニア実物化石と生体復元模型2種
　日程：2017年4月29日（祝）～ 5月7日（日）

・ミニ企画展：パラサウロロフスの下顎化石（レプリカ）
　日程：2017年5月10日（水）～ 6月4日（日）
http://www.museum.city.nagaoka.niigata.jp/

◆川の石を比べてジオを知る
主催：黒部市吉田科学館
後援：日本地質学会中部支部
日程：2017年5月14日（日）雨天・増水時は中止
http://kysm.or.jp/

★その他

地質の日観察会「城ヶ島と三崎の地盤隆起：1923年大正関東地震の地殻変動」

主催：ジオ神奈川
後援：日本地質学会，三浦市，三浦市教育委員会
日程：2017年5月13日（土）10:00 ～ 15:00
場所：神奈川県三浦市城ヶ島
参加費：500円（資料，保険代込）
申込締切：5月5日（金）
申込方法：メールもしくははがきで，住所，氏名，電話，年齢を記入して下記までお申し込み下さい．
申込・問い合わせ先：ジオ神奈川
代表　蟹江康光
〒249-0004　逗子市沼間2-9-4-405
メール：okinaebis@mac.com

★その他

地質情報普及講座「深海から生まれた城ヶ島」

主催：三浦半島活断層研究会
後援：日本地質学会ほか
日程：2017年5月21日（日）10:00 ～ 15:00
　三浦半島最南端の城ヶ島は風光明媚は観光地として知られています．この自然豊かな城ヶ島には美しい風景や動物・植物ばかりではなく，たくさんの変化に富んだ地形・地質を見ることができます．炎が舞っているような火山灰の地層や複雑な断層，深海に生活していた生物の痕跡，激しい火山爆発によってもたらされた火山豆石やゴマ塩火山灰などなど．城ヶ島には，三浦半島誕生の秘密がたくさん詰まっています．
募集人員：50名
申込締切：5月10日（水）
申込方法：往復はがきまたはe-mailにて，住所，氏名，電話番号をご記入のうえ，下記までお申込下さい．
申込先：三浦半島活断層調査会　事務局（赤須邦夫方）
〒249-0007　逗子市小坪5-16-11
e-mail: akasu@jcom.zaq.ne.jp

第8回惑星地球フォトコンテスト審査結果（速報）

～惑星地球フォトコンテストは、ジオフォト文化を代表する最高峰のコンテストです～

　応募作品全650作品のうち，下記の作品が入選・佳作に選ばれました．作品紹介（画像，講評など）は学会HPに掲載しています．また次号ニュース誌4月号にも掲載予定です．

最優秀賞：1点（賞金5万円）
　「毘沙門海岸の奇岩」田中健以（神奈川県）
優秀賞：2点（賞金各2万円）
　「火星」西村礼能留（青森県）
　「奇妙な宇宙（SORA）」渡辺昌也（和歌山県）
ジオパーク賞：1点（賞金2万円）
　「波間のプロムナード」古矢さつき（神奈川県）
日本地質学会会長賞：1点（賞金1万円）
　「安山岩の細胞分裂」牧野帆之香（福岡県）
ジオ鉄賞：1点（賞金1万円）
　「あまちゃんの歌が聞こえる」吉村誠（奈良県）
スマホ賞：1点（賞金5千円）
　「競う曲線美」伊藤正顕（静岡県）
入選：5点（賞金各5千円）
　「渓谷の歴史」寺田百合（東京都）
　「太平洋のヘソ」滝　怜名（愛知県）
　「太古からの流れ」木下　滋（和歌山県）
　「大ヤスリ岩を見下ろす山並み」三浦雅哉（神奈川県）
　「モエラキボールダー」蛯子　渉（沖縄県）

佳作：10点（賞金なし）
　「活」小野祐介（愛知県）
　「冬晴れ」山内崇司（北海道）
　「beautiful FUJIYAMA」本多礼子（東京都）
　「夕暮れの海金剛」松元澄夫（奈良県）
　「咆哮」辰巳　功（東京都）
　「大理石の芸術」佐藤　瞳（宮城県）
　「時が創った渓谷」乗松賢二（愛媛県）
　「天国の洞窟」中尾圭志（神奈川県）
　「火山の恵み」越智優心（神奈川県）
　「大地の記憶」早川　満（兵庫県）

第8回惑星地球フォトコンテスト表彰式
4月8日（土）12:45 ～ 13:45
場所：北とぴあ901会議室（東京都北区王子）

Islands Arcは，2016年より隔月出版となりました．最新号のVol. 26 Issue 2が2017年3月に発行されました．学会ホームページから会員ログインすると全文がオンラインで無料閲覧できます．是非ご覧下さい．

（Island Arc編集委員会）

Vol. 26 Issue 2（March）

［Pictorial］

1. Post-depositional alteration of shallow-marine tsunami-induced sand layers: A comparison of recent and ancient tsunami deposits, Onagawa Bay, northeastern Japan

Koji Seike, Genki Kobayashi, Kazuhiro Kogure

浅海津波砂層の堆積後の変化：宮城県女川湾における現世および古津波堆積物の比較

清家弘治，小林元樹，木暮一啓

［Research Article］

2. Timescale of magma chamber processes revealed by U-Pb ages, trace element contents and morphology of zircons from the Ishizuchi caldera, Southwest Japan Arc

Mami Takehara, Kenji Horie, Kenichiro Tani, Takeyoshi Yoshida, Tomokazu Hokada and Shoichi Kiyokawa

ジルコンのU-Pb年代，微量元素組成および形態観察からみたマグマ溜り進化過程のタイムスケール：西南日本石鎚カルデラを例に

竹原真美，堀江憲路，谷健一郎，吉田武義，外田智千，清川昌一

西南日本外帯に属する石鎚カルデラの火成岩類に含まれるジルコンのU-Pb年代測定，微量元素分析および形態観察を行い，マグマプロセスのタイムスケールを推定した．天狗岳火砕流堆積物からは最も古い14.80±0.11Ma，想思渓花崗閃緑岩，鉄砲石川石英モンゾニ岩，天柱石流紋岩からは14.56±0.10Ma，14.53±0.12Ma，14.55±0.11Ma，番匠谷流紋岩からは14.21±0.19Maの加重平均値が得られた．U-Pb年代値およびHf存在度と希土類元素パターンに基づき，石鎚カルデラを形成したマグマ溜りの進化において以下の3つのステージが識別される．(1) 環状岩脈に沿った天狗岳火砕流の噴出，(2) 外側環状岩脈（天柱石流紋岩）およびセントラルプルトン（想思渓花崗閃緑岩，鉄砲石川石英モンゾニ岩）の貫入，(3) 内側環状岩脈へ番匠谷流紋岩の貫入．石鎚カルデラ形成のタイムスケールとしては，少なくとも60万年以上かかったことが示唆される．年代測定の結果から，石鎚カルデラは中新世西南日本弧における大規模火成活動の一部であったと考えられる．

Key Words：U-Pb年代，ジルコン，SHRIMP，西南日本，石鎚カルデラ，マグマプロセスのタイムスケール

3. Characterization of sulfate mineral deposits in central Thailand

Junichiro Kuroda, Hidetoshi Hara, Katsumi Ueno, Thasinee Charoentitirat, Teruyuki Maruoka, Takashi Miyazaki, Akira Miyahigashi and Stefano Lugli

タイ中央部の硫酸塩鉱物岩体の地球化学的特徴と年代

黒田潤一郎，原　英俊，上野勝美，Thasinee Charoentitirat，丸岡照幸，宮崎　隆，宮東　照，Stefano Lugli

タイ中央部のナコンサワン北東に分布する硫酸塩鉱物岩体の岩石学的・地球化学的研究を行い，その年代や成因を検討した．この岩体は層状硬石膏と，その上位の変形した石膏からなり，安山岩質ダイクに貫入される．ジルコンU-Pb年代は中期三畳紀の貫入年代を示し，三畳紀のスコタイ弧広域的マグマ活動に関連したものと思われる．硫酸塩鉱物の硫黄同位体比とストロンチウム同位体比を，顕生代の海水の同位体進化曲線と比較した結果，石炭紀（サープコビアン）の海水の値に一致した．この年代は，周辺の石灰岩に産する石灰質化石の年代とも整合的である．この硫酸塩岩体の履歴は以下のようになる．まず，石炭紀サープコビアンに浅海域で高塩海水から初生的石膏が晶出し，その後，埋没続成で硬石膏に再結晶した（層状硬石膏）．この硬石膏は中期三畳紀に安山岩質ダイクの貫入を受け，最近になって再び地表近くにもたらされ，上部が水和して石膏が再晶出した．石膏の変形構造は，水和の際の膨張によるものと考えられる．

Key Words：硫酸塩鉱物，蒸発岩，ストロンチウム同位体，硫黄同位体，石炭紀

4. Evolution of crustal deformation in the northeast-central Japanese island arc: Insights from fault activity

Ayumu Miyakawa and Makoto Otsubo

日本弧における東北から中部にかけての地殻発達過程：断層の活動性からの洞察

宮川歩夢・大坪　誠

日本弧における東北地方から中部地方にかけての活断層と非活断層（第四紀の活動が認められていない断層）に対して，断層の姿勢と地域の応力場からスリップテンデンシー（力学的な活動しやすさ）を計算した．基本的にスリップテンデンシーは活断層で高く，非活断層では低い．幾つかの非活断層から得られた高いスリップテンデンシーは，その断層の潜在的な活動性の高さを示唆する．非活断層の潜在的な活動性の高さは，長い地殻変形過程における非活断層から活断層への時間発展でモデル化可能である．研究地域における潜在的に活動性の高い断層の空間分布は，日本弧における東北地方から中部地方にかけての地殻変形過程の時間発展を反映している．

Key Words：活断層，非活断層，スリップテンデンシー，応力逆解析，日本海東縁，新潟－神戸ひずみ集中帯

5. Pb-isotope compositions of the Tasik Chini volcanic-hosted massive sulfide deposit, Central Belt of Peninsular Malaysia: Implication for source region and tectonic setting

Mohd Basril Iswadi Basori, Khin Zaw, Sebastien Meffre, Ross Raymond Large, Wan Fuad Wan Hassan

マレーシア半島中央帯チニ湖火山岩類に胚胎した塊状硫化物鉱床の鉛同位体組成：起源物質およびテクトニクスについての示唆

マレーシア半島中央帯に位置するチニ湖火山岩類に胚胎した塊状硫化物鉱床の主要部をなすBukit Ketaya，Bukit Botol両鉱体の硫化物およびその母岩の火山岩の鉛同位体組成を測定した．Bukit Botol鉱体では硫化鉱物・火山岩とも一様かつ放射起源同位体の寄与の少ない値を示した（$^{206}Pb/^{204}Pb$, $^{207}Pb/^{204}Pb$, $^{208}Pb/^{204}Pb$それぞれ18.14-18.20, 15.52-15.59, 37.96-38.35）．同様にBukit Ketaya鉱体の母岩の火山岩も硫化鉱物より狭い同位体組成範囲を示した（$^{206}Pb/^{204}Pb$, $^{207}Pb/^{204}Pb$, $^{208}Pb/^{204}Pb$それぞれ18.04-18.20, 15.43-15.57, 37.96-38.30）．これらの一様性は両鉱体の同源性および鉱化作用の類似性を示唆する．マレーシア半島中央帯のテクトニクスを考慮すると，2つの鉱床が示すPb同位体比は初期島弧地殻に少量のマントル物質の混合によって説明でき，島弧-背弧系の火山岩類に胚胎した塊状硫化物鉱床の典型と言える．

Key Words：チニ湖，火山性塊状硫化物（VHMS），鉛同位体，半島マレーシア，テクトニック・セッティング

6. Variations in thickness of fault-controlled dikes and its implications: A case study of Gosung area, South-East Korea

Paul Edwards, Jin-Hyuck Choi, Young-Seog Kim

断層に制御された岩脈の厚さ分布とその意味：韓国南東部固城地区の例

韓国南東部の固城地域の波食台に露出する，母岩の既存の亀裂内に貫入した岩脈の厚さと岩脈周辺の母岩中の割れ目の数密度や形状を解析した．既存の割れ目に貫入した岩脈の形状や厚さの変化はマグマ貫入に対する既存の割れ目の影響を示している．マグマ貫入量は水平最小圧縮軸方向に垂直な割れ目に沿って最大となり，また連結した割れ目ほど大きい．断層の先端部やダメージゾーンには開口割れ目が集中して形成されており，そこではマグマが注入して形成された小岩脈がみられる．断層が連結するにつれて周辺の母岩内の亀裂数密度は増加し，断層が完全に連結して一連の断層としてふるまうようになるまで増加し続ける．断層成長につれて断層の境界条件は様々に変化し，それが既存の割れ目に貫入する岩脈にも影響を与える．岩脈周辺の割れ目の構造は断層の成長過程の記録であり，マグマや流体の移動に対する断層システムの成熟過程の影響を示している．

Key Words：岩脈厚さ，断層ダメージゾーン，既存亀裂，断層成長，断層連結，流体

Island Arc編集事務局の連絡先変更について

2010年以降，Island Arc誌の編集事務局を東京都神田の日本地質学会事務局内に置いてきましたが，効率的かつ迅速な編集作業の推進を目的として，本年3月より業務の一部をWiley社に委託することとなりました．これに伴い，編集事務局のメールアドレスが変更されましたことをご報告申し上げます（新アドレス：Island_Arc_editorialoffice@wiley.com）．今回の編集体制の変更により，スピーディーな査読および編集作業が期待されるなど，著者及び読者の方々により良いサービスを提供できるものと考えております．会員の皆様方におかれましては，今後ともIsland Arc誌の編集発行にご協力いただけますようお願い申し上げます．

編集委員長　武藤鉄司（長崎大）
田村芳彦（JAMSTEC）
編集事務局長　板木拓也（産総研）

原稿投稿や査読に関するお問い合わせは，
新アドレス：Island_Arc_editorialoffice@wiley.com

☆関東支部

案内

2017年度総会・地質技術伝承講演会開催のお知らせ

関東支部では，下記のように支部総会および地質技術伝承講演会を開催いたします．

日時：2017年4月15日（土）14:00 ～ 16:45

場所：赤羽会館（昨年までとは異なります）4階小ホール（東京都北区赤羽南1-13-1）JR京浜東北線赤羽駅東口徒歩3分

プログラム

13:30　受付開始

14:00 ～ 15:40　**地質技術伝承講演会**

共催：（一社）関東地質調査業協会

講師：岡野英樹（（株）東建ジオテック 本店技術部課長）

演題：「**（仮）環境地質調査のはなし－現場手法と解析－**」

参加費：無料，どなたでも参加できます．

CPD単位取得可能（1.5）

申込方法：公開中のジオ・スクーリングネットによる登録または学会へのFAX，下記担当幹事へのe-mailにて受け付けます．

1）ジオ・スクーリングネットhttps://www.geo-schooling.jp/

2）関東支部幹事　加藤　潔（駒澤大学；kiyoshi.katoh@gmail.com）

3）日本地質学会関東支部気付　関東支部　FAX:03-5823-1156

15:50 ～ 16:45　**関東支部総会**

1）支部功労賞授与式

2）2016年度　活動報告・会計報告

3）2017年度　活動方針・予算報告＊関東支部会員の方で総会に欠席される方は委任状をお願いします．

委任状送付方法：

○郵送またはFAXの場合は下記にお送りください．

〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F

日本地質学会事務局気付　関東支部事務局FAX:03-5823-1156

○E-mail送付の場合関東支部のメールアドレス（kanto@geosociety.jp）へ委任状をご返信下さい．

メールによる**委任状の締切は4月14日（金）18:00まで**です．

関東支部総会委任状

2017年4月15日（土）開催の日本地質学会関東支部総会に出席できませんので，当日一切の議決権を　　君（又は，議長）に委任します（空欄の場合は議長とします）．

2017年　　月　　日

住　　所：

会員氏名：

☆関東支部

報告

火山灰ミニ巡検実施報告

関東支部では，大磯丘陵北西部の火山灰ミニ巡検を2016年11月26日（土）に実施しました．今回の講師は，生命の星・地球博物館の笠間友博学芸員につとめていただき，講師・幹事を含め13名で巡検を行いました．当日は天候も良く，10時10分に御殿場線上大井駅に集合し，車に分乗して最初の観察地点である，メガソーラー施設「きらめきの丘おおい」へ向かいました．「きらめきの丘おおい」には，箱根東京テフラの露頭が神奈川県足柄上郡大井町と（株）古川により保全されています．関東支部では，この保全の取り組みに敬意を表して，大井町と（株）古川に2015年度関東支部功労賞を授与しました．箱根東京テフラは，約6.6万年前に，箱根火山の噴火により噴出した，降下軽石（Hk-TP）と火砕流堆積物（Hk-T（pfl））からなります．造成してまもなくという露頭であるため，会員から火山ガラスを非常に新鮮な状態で観察することが出来て良いという声が上がっていました．午後は付近の沢（菊川支流）に露出する多摩ローム層相当のテフラを見て巡りました．本地点は，上杉ほか（2000）で多摩中部ローム層の模式地として再設定された場所です．重要なテフラとして，TCu-1（Tm-2）テフラを観察することができます．TCu-1（Tm-2）テフラは，箱根火山カルデラ形成期（23 ～ 13万年前）の噴出物と考えられています．また本地点では，箱根火山由来ではない角閃石型テフラを観察することができます．沢の中は，前日の雪の影響か足下が悪く滑りやすい状況でしたが，なんとか予定通り観察を終え，16時頃に上大井駅にて解散しました．

参加者集合写真．「きらめきの丘おおい」箱根東京テフラ露頭の前にて．

（関東支部幹事，神奈川県温泉地学研究所　小田原　啓）

はじめての研究航海：KR16-14航海乗船記

本多睦美
静岡大学大学院総合科学技術研究科
理学専攻地球科学コース

海は好きですか？　船は好きですか？　平成28年10月26日から11月3日までの9日間，KR16-14 航海が実施されました．本航海は筆者が参加するはじめての研究航海でした．本乗船記では，KR16-14 航海の概要と船上生活を報告いたします．

フィリピン海プレートの東縁の沈み込み帯としてマリアナ海溝が存在しています．グアム島南西方のマリアナ海溝南部には，地球上の最深部であるチャレンジャー海淵（水深10920 m）が存在しています．マリアナ海溝南部は，地球ダイナミクスの観点で非常に活動的であり，海溝陸側斜面には前弧マントルが直接露出していることが80年代から知られていました．チャレンジャー海淵の北東の水深約5700 mの海溝陸側斜面には，しんかい湧水域（Shinkai Seep Field）と呼ばれる冷湧水系があります．この冷湧水系は2010年に実施された前弧マントルかんらん岩のマッピングを目的とする「しんかい6500」による潜航調査（YK10-12）中に偶然に発見されました（Ohara et al., PNAS, 2012）．しんかい湧水域では，前弧マントルかんらん岩を母岩とする蛇紋岩体に胚胎する大規模なシロウリガイコロニー群やチムニー群が確認されており，世界中で見つかっている化学合成生態系の中で最も深い水深を記録しています（Ohara et al., PNAS, 2012; Okumura et al., G3, 2016）．しんかい湧水域における調査は過去4回の「しんかい6500」による潜航調査（YK10-12，YK13-08，YK14-13，YK15-11）で行われています．航海を重ねることで，新たなコロニー群やチムニー群の発見，チムニーの成長確認及びそれに伴う湧水の存在確認（Okumura et al., G3, 2016），ハイカブリニナの新種の発見（Chen et al., J. Mar. Bio. Assoc. UK, 2016）など，様々なことが明らかになってきました．しかし，湧水が目視できないことや，湧水系を支える水理学的・地質学的な構造の詳細が明らかになっていないことから，しんかい湧水域の全容解明には至っていません．このような背景から，「超精密海底地形図にもとづく南部マリアナ前弧しんかいシープの包括的理解」を目的にKR16-14航海が実施されました．

調査は，深海調査研究船「かいれい」と無人探査機「かいこうMk-IV」を用いて実施されました．本航海には海上保安庁，海洋研究開発機構，国立極地研究所，岡山大学，テキサス大学ダラス校，静岡大学から計13名の研究者と学生が参加し，生物班，水・微生物班，地物班，岩石班に分かれて作業を行いました（図1）．生物班，水・微生物班，岩石班は，かいこうMk-IVにより採取された生物や湧水，岩石の記載・分析を行いました．地物班は，マルチビームソナー SeaBat7125による海底地形データと深海3成分磁力計による地磁気データの取得・解析を行いました．また，本航海では4名のNHKの撮影クルーが乗船し，NHKスペシャルでの放送のために撮影をしました．

筆者は岩石班に所属し，採取された岩石の記載や配分のための切り出しを行いました．そのほかに，かいこうMk-IVに搭載するペイロードやサンプルボックスの記録を行いました．設置

図1　KR16-14航海乗船者の集合写真．

機器の配置や，試料採取の場所や時間のログを取り，試料を入れた場所を写真撮影し，サンプルボックス図に記録しました．初乗船ということもあり，ペイロードなどの用語や必要な記録事項がわからず右往左往してしまいました．しかし，周囲の研究者のみなさんが記録箇所の助言や図の改善案を提案してくださったおかげで作業を進めることができました．回数を重ねるにつれ慣れてきましたが，慣れたころには全ての潜航が終わってしまいました．当初かいこうMk-IVの潜航は6回予定されていましたが，海況の悪化により4潜航のみで切り上げ，回航に入りました．

本航海で得られた主な成果は，2つあります．まず，1 mグリッドという超高解像度の海底地形データを得られたことです．このデータを用いて超精密海底地形図を描けば，これまでの調査ではみえていなかった地形が明らかになり，しんかい湧水域の水理学的背景の理解が進むことが期待されます．もう1つはYK15-11航海の際に設置したマーカーに湧水が捕獲されており，今航海ではその湧水の採取に成功したことです．船上で湧水のpHを測定した結果，pH = 9.89と高アルカリ性を示しました（Ohara et al., JAMSTEC Cruise Report, 2016）．これにより，しんかい湧水域から確かにアルカリ性流体が湧出していることが確認されました．今後，分配された試料の研究がすすみ，新たな知見が得られることでしょう．また，NHKスペシャルの放送も楽しみです．

話は戻りますが，海況の悪化により潜航がなくなるということは，船の揺れが大きく船酔いしやすい環境にあるともいえます．波が船にあたる音が船内に響きわたり，廊下を歩く時は自然と壁伝いに歩いてしまうほど揺れていました．回航中のため，作業が少なかったこともあり，仮眠をとり船酔いをしのぐことができました．しかし，船酔いがひどいときは食事がのどを通りにくい状態でした．毎日メニューが変わり，量も品数も多い食事は航海中の楽しみのひとつです．おいしそうな料理をみても食欲がわかない悲しみにくれている中，下膳の際に司厨さんが体調を気遣って声をかけてくださりありがたかったことが印象に残っています．

船上生活で最も長く過ごした場所である居室は4人部屋でした．共用の洗面台とソファがある部屋を中心に4つの個室があり，個室にはベッドと机，収納スペースがありました．話によると，船や部屋によって間取りは異なり，「かいれい」は1段ベッドですが，「よこすか」や「ジョイデスレゾリューション」は2段ベッドとのことです．2段ベッドの上段は揺れが大きいときいていたので，この間取りを確認したときには少し安堵しま

した．同室は海洋研究開発機構の研究者の方と，テキサス大学ダラス校の学生でした．初めての船上生活に加えて英会話をするという慣れないこと尽くしで不安でした．しかし，船上生活に必要なことを丁寧に教えてくださったり，わかりやすい単語に言い換えて英語を話してくださったり，様々な気配りのおかげで途中からは不安もとび，航海を楽しむことができました．

念願の研究航海に参加することができ，一番印象的だったのは，観測技術員，かいれいの乗組員，かいこうMk-IVの運航チームの人たちに支えてもらって航海が成立していることでした．乗組員の方たちが海況を的確に判断することで安全な航海を行うことができたり，かいこうチームの人の巧みなオペレーションによって試料を採取することができたり，想像以上にたくさんの方々の力が結集していました．航海に参加せずいただいた試料で研究をしているとなかなか知ることのできない，調査の現場の方々の巧みな技と尽力を目の当たりにし，海の試料の貴重さを改めて実感することができました．

最後に，航海に参加する機会をくださった指導教官の道林克禎教授と首席研究員の小原泰彦博士，そして支えてくださった研究室の先輩である大家翔馬さんやKR16-14乗船者のみなさまにこの場を借りて御礼申し上げます．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名で行っています．原稿は5000字以内，図・写真３点以内を目安に，e- mailでいただければ幸いです．

kouzu_0419@geol.tsukuba.ac.jp　高津翔平（筑波大）
16nd204l@vc.ibarkai.ac.jp　羽田裕貴（茨城大）
k0231215@kadai.jp　山下大輔（熊本大）
yamada-masataka1@ed.tmu.ac.jp　山田眞嵩（首都大）

表紙紹介

写真１

写真２

竹富島の石塀にみられるチャート
Chert in stone fence made of Ryukyu limestone, Taketomi Island, Okinawa, Japan

貴治　康夫（大阪府立箕面東高等学校）

星砂で知られる竹富島は周囲約９ km の小島である．ここではシーサーが置かれた赤瓦の民家をグックとよぶ低い石塀がめぐる，沖縄独特の家並みを見ることができる．

わが国最西端かつ最南端の重要文化財建造物である旧与那国家（1913 年建造）も，琉球石灰岩のブロックが積まれた伝統的な石塀に囲まれている（表紙写真）．土台に据えられた大きな灰白色の層状チャートは，竹富島の石塀にみられる特徴でもある（写真 1）．あきらかに転石とわかるものもあれば，その場所にもともとある露頭を利用していると思われるものもある（写真 2）．チャートは竹富島の東方，石垣島に分布する冨崎層（砂泥基質のメランジュ）に対比される．冨崎層は放散虫化石や放射年代測定値などからジュラ紀付加コンプレックスに属すると考えられている．チャートには，細かな結晶を伴った石英脈が発達して珪岩様の外観を呈すものなど，接触変成作用を受けた可能性のある岩塊が認められる．

竹富島では冨崎層相当層を琉球石灰岩が不整合に覆い，平坦な島の北北西から南南東にかけて，標高の高い場所のところどころに風化に強いチャートが露出する．島内には御嶽（オン）とよばれる神聖な場所が点在している．旧与那国家の近く，東パイザーシ御嶽にはチャートの露頭がある．ここでは島をつくり，島を育てる神が祭られてきたという．

河川のない小島では地下水は貴重である．チャートが不透水層になり，それに接する琉球石灰岩層に雨水が大量に留まり，井戸が掘られる．いのちをつなぐ井戸の周囲には民家が集まる．竹富島ではチャートの存在は大きい．

学　会　記　事

一般社団法人日本地質学会の議事録を掲載しています.

2016年度第3回理事会議事録

日　時：2016年12月3日（土）13：30 ～ 16：45
会　場：北とぴあ　701会議室
出席役員 理事（32名）：天野一男　安藤寿男　井龍康文　大藤　茂　緒方信一　狩野彰宏　亀尾浩司　川端清司　小宮　剛　斎藤　眞　佐々木和彦　坂口有人　澤口　隆　菖蒲幸男　杉田律子　田村芳彦　田村嘉之　内藤一樹　中澤　努　仲谷英夫　西　弘嗣　楡井　久　平田大二　廣木義久　福冨幹男　保柳康一　松田達生　松田博貴　向山 栄　矢島道子　山本高司　渡部芳夫
監事（2名）：山本正司　藤本光一郎
欠席役員 理事（13名）：有馬 眞　市川八州夫　岡田　誠　笠間友博　川辺文久　清川昌一　沢田　健　竹下 徹　辻森　樹　星 博幸　奈良正和　三田村宗樹　山田泰広
事務局：橋辺菊恵
＊成立要件：理事総数45名の過半数23名．本日の出席者32名で本理事会は成立.
＊議決：出席者の過半数　17名
＊議長：向山栄理事　副議長：佐々木和彦理事
＊書記：菖蒲幸男理事・仲谷英夫理事（開催にあたって選出）

報告事項

1．執行理事会報告（斎藤常務理事）
・第4 ～ 6回の執行理事会議事録の要点が説明された.
・前回理事会以降の逝去会員の氏名が報告され，黙祷をささげた.
2．理事及び委員会等報告
1）子供ゆめ基金申請（子ども向け地質学デジタル教材の制作）に関する報告（小宮理事）
・子供ゆめ基金の申請を実施した.
・12月中に１次審査結果，そのうえで2月にヒアリングが予定される.
2）125周年実行委員会報告（矢島理事）
・地質学雑誌特集号を来年2月より開始したい．執筆者の方は，原稿を提出してもらいたい.
・ロゴマークが決定した．2017年1月からの学会発送物，各種印刷物に掲載していきたい.
・ポスターは最終案を検討中（現段階案が回覧された）.
・ジオルジュ誌の既刊号より記事をピックアップして，英文の特別号の発行を予定している．翻訳代などを含め，80万円程度を予算化している.
・松田副会長より，支部でも2018年の記念事業の予算化をするので，シンポジウムなど記念事業の開催を検討してほしいとの要請があった.
3）県の石出版物の報告（井龍理事）
・出版は（株）文一総合出版を予定している.
・発行は2018年4月を予定している.
・原稿に関して12月中に依頼する予定なので，支部等には協力をお願いしたい.
4）各賞選考委員会推薦状況（保柳理事）
・推薦状況が報告された（学会賞：5件，国際賞：3件，小澤賞・柵山賞：3件（小澤：2，柵山：1），研究奨励賞：6件，論文賞：4件，小藤文次郎賞：6件，学会表彰：1件，功労賞：1件，以上，推薦数合計29件）.
・3賞の選考を諮問する選考検討員会メンバーが報告された．執行理事会が推薦する若干名の委員については，後日執行理事会で検討を行う.
前・現会長：井龍康文，渡部芳夫
過去3年間の学会賞受賞者：川幡穂高，斎藤文紀，脇田浩二，荒井章司
地質学雑誌前・現編集委員長：小嶋　智，山路　敦
IAR前・現編集委員長：伊藤　慎，海野進，田村芳彦，武藤鉄司
5）国際地学オリンピック実施報告（地学オリンピック日本委員会久田理事長）
・日本大会は成功裏に終了した.
・今月中に報告書をまとめる予定である．また，JSTの監査が2月に予定されている.
・収支は，420万程度の黒字となった．理由：30か国の参加が予定されていたが，5か国がキャンセルした．その他，節約を実施した.
・地学オリンピック日本委員会としては，余剰金は日本委員会の活動費及び地学教育の普及に使用していきたい，との報告に対し，収支及び使途の考え方については，事前に連絡がほしかったとの意見があった.
3．その他報告
1）地質調査研修について（杉田理事）
・どのような実施形態が望ましいかを今後改めて検討するとして，来年度の地質調査研修は一時中止するとの報告がなされた.
2）日本地球惑星科学連合の学協会長会議報告（渡部会長）
・学協会等の団体会員に関連する規則変更を予定している．これにより学協会は団体として社員総会での議決権がなくなる.
・理事会との連携強化を図るよう，学協会としては，学協会長会議幹事会，仮称）を設置して運営に関われるようにすることが決まった.
3）当理事会開催中に，台湾大学の江博明先 生（Island Arc Editorial Advisory Board，2014年地質学会国際賞受賞者）の急逝に関し，葬儀など先方の状況が判明した．そのため急きょ会長より，前例としないことを確認して，地質学会およびIAR編集委員長の連名で献花をすることの提案があり，一同これを了承した.

審議事項

1．総会の日程について
総会を5月20日（土）12：15 ～ 13：15に開催したいとの提案に対し，全会一致で承認された.
2．2016年度事業実績経過報告
会長から，今年度の事業計画に対応して実績の経過報告が資料により説明された.
これに対して以下のような意見があったのち，全会一致で承認された.
・(5.社会貢献）の項目中「・・・原案作成委員会に参画について」のくだりは，確定ではなく予定であることが確認された.
・災害が起きるたびに地質学会のステータスが落ちてきている．専門的な地質学会としては論集（など）を出すことは重要なことである.
・メディアでの用語の不正確さが気になっている.
3．2017年度事業計画骨子（案）
資料により，会長から2017年度の事業計画骨子案が説明された．以下のような意見交換の後，全会一致で承認された．なお，支部担当の松田副会長からは，支部ならではの活動計画，特にCPD登録事業等についての企画立案と予算申請をお願いしたい，との要望があった.
・ジオパーク，日本遺産，世界遺産に関してもコメントしてはどうか ⇒ やれることのみを記載している.
・地質学雑誌の電子化について，動きについて教えてほしい ⇒4月の理事会である程度報告できると考えている．また，電子メールも6割程度の会員にしか届いていない状況も考慮する必要もある.
・多くの国民や児童生徒に地学の素養が欠如している．中長期的には地学教育の必修化が必要ではないか．中学では地学の分野がかなりを占めているが，地学教育の現状の体制ではそれが十分生かされていないのではないか.
4．地質学雑誌「編集投稿出版規則」の改正
中澤編集担当理事より，改正の要点について，主な改正点は以下の２点であることが説明され，全会一致で承認された.
・郵送による投稿の受付取りやめ（電子投稿に限定）
・引用文献リストの英語表記拡張
5．IARの編集業務体制の変更について
田村委員長より編集実務の現状が報告され，今後の編集業務をWiley社にアウトソーシングするとの説明があった．要点は以下のとおり，全会一致で承認された.
・主に学会事務局で行っている業務をWileyに委託する.
・委託費用：年間投稿論文数100編まで80万円（現行Wiley社より支払われている編集

費内で賄う）
・2017年2月から委託を開始予定
6．創立125周年に向けてのアクションプラン（案）
会長による125周年を踏まえたアクションプラン案についての趣旨説明があった．文言および内容について下記の意見があり，それらを勘案して修正を加えることで文案は承認された．同文は会長の年頭のあいさつとして，News誌，HPに掲載される．
・「社会の各階層や職種・環境の異なる人々に・・・・」の文章は，誤解を与える可能性はないか ⇒ この文章については再検討する．
・支部でCPDがとれる事業を開催してはどうか．
・「防災」ではなく，「減災」のほうがいいのでないか．
7．名誉会員推薦委員会委員の選出について
名誉会員推薦委員会規則により下記の委員を選出し，全会一致で承認された．
・階層別委員　4名：【執行理事会の推薦】官公庁：加藤碵一，小中高教員：会田信行，会社：足立勝治，大学：木村　学
・職責委員（各支部長）7名：竹下　徹，柴正敏，有馬　眞，大藤　茂，三田村宗樹，石塚英男，仲谷英夫
・理事会推薦委員1名：理事会にて選出
・理事会からの推薦として向山理事が選出された．
以上，この議事録が正確であることを証するため，議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する．

2016年12月21日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長　向山　栄

2016年度第6回執行理事会議事録

期　日：2016年12月3日（土）11：00 ～ 12：30
場　所：北とぴあ　701会議室
出席者：渡部会長，山本副会長，松田副会長，齋藤常務理事，安藤，緒方，坂口，杉田，田村，小宮，内藤，中澤，平田，西，廣木，向山議長，佐々木副議長，（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：岡田　辻森　山田
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者15名，委任状3名，合計18名の出席．
＊前回議事録の承認
Ⅰ　審議事項
1．理事会審議事項の最終案確認
1）2016年度事業実績経過報告（渡部）
逐条確認の上，理事会議案として承認した．ただし，事業計画案と実績概要の各項目との対比をわかりやすくするために表とすることとした．
2）2017年度事業計画骨子（案）（渡部）
資料を確認の上，理事会議案として承認した．
3）地質学雑誌「編集投稿出版規則」の改正，再提案（中澤）
資料で今回の改定案の要点を確認の上，理事会議案として承認した．
4）IARの編集業務体制の変更について（田村）
学会の事務業務量増大に伴う事務局体制検討の一つとして，学会事務局で行っているIAR編集事務を出版元のWiley社に委託する案について検討した（報告事項2．（2）4）参照）．IAR編集委員長・編集事務局長，学会事務局，Wiley社担当者の打ち合わせ（11/30）内容の報告を受け，Wiley担当者との引継ぎ（2016年12月～ 2017年1月）を進め，2017年2月から委託開始する案を承認した．
5）創立125周年に向けてのアクションプラン（案）（渡部）
資料を確認の上，理事会議案として承認した
2．理事会議事運営
理事会議長・副議長とともに，第3回理事会議事次第の各事項を確認した．
3．その他
1）野外調査の研修制度（地質調査研修）のあり方の検討（杉田）
地質調査研修は地学情報サービス（株）から引き継ぎ，2012年以降今秋まで徳橋講師のご尽力により行われてきたが，今後，学会の事業としての実施のあり方等を再検討することとした．したがって，来春からの地質調査研修は実施を見合わせることとする．
2）学術会議会員半数改選（平成29年10月）に向けて，候補者の情報提供依頼，1/6 ～ 1/20（斉藤）
会員・連携会員一覧を確認の上，女性4名を含む6名を連携会員として推薦することとした．

Ⅱ　報告事項
1．全体的報告
江　博明氏（台湾：Island Arc Editorial Advisory Board）の突然の逝去に対し，台湾地質学会会長に対し，会長名で弔文メール送付した．Island Arc編集委員会委員長からも同様にメールを送付．※なお，その後（理事会席上）先方の状況が判明したので，前例としないことを確認して，地質学会会長およびIAR編集委員長の連名で献花することとなった．
2．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
1）三菱財団より，自然科学研究助成，募集期間1/10 ～ 2/7（学会推薦不要）→ HP，geo-flash，ニュース誌に掲載
＜会員＞
1）今月の入会者（1名）正会員〔1名〕：吉村成公
2）今月の退会者　なし
3）今月の逝去者　なし
4）2016年11月末日会員数 賛助：27，名誉：56，正会員：3716（正会員：3531，院割会員：171，学部割会員：14）合計3798（昨年比 -77）
5）年度末（2017/03）退会予定者（46名）・除籍予定者（67名）の名簿を回覧した．
3．編集出版部会（中澤・田村・小宮）
(1) 地質学雑誌編集委員会　（山路編集委員長，中澤担当）
1）編集状況報告（12月1日現在）．
・2016年投稿論文　総数86編［総説15（和文15），論説42（和文42），報告7（和文4，英文3），講座5（和文5），ノート3（和文2，英文1），口絵3（和文3），巡検案内書11］
・査読中：38，受理済み：11編（うち特集号3）
・122巻11月号：論説4，報告1（10/29発送済み）
・122巻12月号：論説2，報告1，ノート1，講座1　計約50ページ，入稿・校正中
・規則改正について
(2) アイランドアーク編集委員会　（田村）
1）編集状況
Vol.26 Issue1（2017年1月）：IGCP特集号4編，一般原稿1編；計5編予定
2）オンライン投稿の状況
過去半年（2016.6.1?2016.11.30）の投稿数42件．うち新規投稿32件．
3）特集号編集状況（　）は代表世話人，［公開済/受理済み/構成予定原稿数］
「Land-Ocean Linkages and Biotic Evolution during the Cretaceous：Contribution from Asia and Western Pacific（IGCP608）」（安藤寿男）［2/8/28］
「Orogenic processes in island arcs：subduction，accretion，collision and recycling.」（山本啓司）［0/0/17；6編投稿済み］
「The mechanics and evolution of megathrusts within accretionary complexes」
（坂口有人）［2/4/12］
「Recent progress in study on calcareous algae and algal sediment」（井龍康文）［0/5/12］
4）その他
・IAR編集事務局業務委託について
11/30に武藤，田村両編集委員長，板木編集事務局長，澤木（学会事務局）およびワイリー担当者を交えて検討を行い，主に学会事務局で行っている業務を委託することとした．委託費は，年間投稿論文数100編まで80万円（さらに割引を交渉中）．投稿数100編を超えた場合の費用について，大幅な投稿増が見込まれる場合は，ワイリー社と応相談．また委託費用の支出方法については，学会会計担当者と相談のうえ決定する．あわせて編集委員会は引き続き投稿論文数を増やし，雑誌

契約ページ数（845p）に近づけるよう編集努力を行うことを確認した．今後は，ワイリー担当者と具体的に引き継ぎを行い（2016年12月～2017年1月），2017年2月から委託を開始したい．

・New Journal Workflowへの移行（2017年1月より順次導入予定）

おもな内容は以下の通り．

①2017年1月より誌面変更（New Journal Design：NJD）．

②永続的な電子著作物の識別子であるeLocatorの付与（2017年1月より）．

③校正確認をPDFからHTML画面でのチェックに変更．著者，編集委員会が同じ画面を共有して確認作業を行う（2017年春以降導入予定）．

5）将来的には投稿～出版までを著者，査読者，Editorが同じオンラインファイル上で行えるようにする．

以上

2017年1月21日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）渡部芳夫
署名人 執行理事 斎藤 眞

2016年度第7回執行理事会議事録

期 日：2017年1月21日（土）13：00～17：00
場 所：地質学会事務局
出席者：渡部会長，山本副会長，松田副会長，齋藤常務理事，安藤，岡田，杉田，田村，小宮，内藤，中澤，西，平田，廣木，（事務局）橋辺
欠席者（委任状提出あり）：緒方（渡部）坂口 辻森（斎藤）山田
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14名，委任状4名，合計18名の出席．
＊前回議事録を承認した．

Ⅰ 審議事項

1．山田科学財団の研究援助推薦（推薦枠3名）希望者1件の選考（財団締切2/24）

現時点で応募のある1件の推薦を決定した．なお，学会への推薦応募申請は1月末なのでそれまでに他の申請があれば，随時選考することとした．

2．愛媛大会の委託業務見積もりと業者の選定

アカデミック・ブレインズ（株）の見積もり書類を確認し，委託を承認．

3．2017年度予算要求作業について

支部，専門部会，委員会等からの予算要求の取りまとめ中

「創立125周年に向けて重点化する短期的アクションプラン」に沿って，来年度の各事業および各支部，専門部会，委員会事業についても見直しや検討を行っていくことを確認．

4．地質調査研修事業について

本事業については，事業見直しのため現行の地質調査研修事業の終了を12月の執行理事会で決定し，理事会への報告を行った．これをうけて共催先である産総研にも通知することとした．また，この間，講師を務めていただいた徳橋会員にもこのことを報告することとした．

Ⅱ 報告事項

1．全体的報告

1）子ども向け地質学デジタル教材の制作について，子どもゆめ基金の第一次審査を通過し，2月23日に二次審査のヒアリングが行われることとなった．審査書類の作業は進行中．（小宮）

2）鉱物資源部会は2017年1月1日より中村謙太郎会員が部会長となる報告があった．

9月年会以降，部会長の交代があったのは以下のとおり．地域地質部会：斎藤 眞，層序部会：岡田 誠，堆積部会：横川美和，構造地質部会：金川久一，火山部会：及川輝樹

3）センター試験の評価について（廣木）

2．運営財政部会：総務委員会（緒方・西）

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

1）第9回地理学連携機構，地理関連学会連合（地質学会は賛同学会），人文・経済地理及び地域教育関連学会連携協議会による合同総会（3月27日13時～14時50分，筑波大学）は，欠席の返事をすることとした．

2）科学技術振興機構研究プロジェクト推進本部より「戦略的創造研究推進事業・総括実施型研究（FRATO）の研究総括候補者の推薦依頼，年間を通して随時受付．プロジェクト約5年間，12億円上限←geo-flash，News，HPに掲載

3）消防庁「平成29年度消防防災科学技術研究推進制度」研究開発課題の公募（12/5-2/6）
← geo-flash，News，HPに掲載

4）国際会議「第4回Slope Tectonics」（実行委員長千木良雅弘）2017/10/14-18，京都大学の後援を承諾．

5）「ふしぎ発見鳥取砂丘」（鳥取砂丘再生会議）2017/01/21の後援を承諾．

6）地質標本館新春特別展「ふるさとの新たな主役県の石」2017/1/17-2/26の後援を承諾．

7）科学教育研究協議会64回全国研究大会（広島市8/7-9）の後援を承諾．

8）以下の後援事業の報告があった．

①第17回子供のためのジオカーニバル：来場者2400名，13ブース，4セミナー開催

②新潟大学旭町学術資料館企画展示「ジオパークの石ころ展」：来場者529名，体験イベント109名の参加者．

9）岩本鉱産物商会より，2017年1月末日をもって100年営業の歴史に終止符を打つとの挨拶があった．これに対し，会長名でご挨拶状を送った．

＜会員＞

1．今月の入会者（4名） 入会申込書を回覧し承認

正会員（院割）〔4名〕：穴井千里（2016年度から），高村悠介・栗原祐典（以上2017年度から），川口昌人

2．今月の退会者（正会員2名）井澤一輝，薗田哲平

3．今月の逝去者（正会員2名）堀井 篤（2016年8月21日）小池美津子（2016年4月28日）

4．2016年12月末日会員数 賛助：27，名誉：56，正会員：3716（正会員：3529，正（院割）会員：171，正（学部割）会員：16）合計 3799（昨年比 -80）

＜会計＞

・支部及び専門部会に2017年度事業計画および予算案の提出の連絡をした．

3．広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）

(1) フォトコンの応募数650点（一般613，中高生37，スマホ53，ジオ鉄18）．2/15に二次審査を行う．前年より応募数が増加．展示会（銀座のプロムナード（6月）に申込中，4月に抽選結果），授与式の実施体制検討中

(2) 地質学会ウェブサイト（英文）の更新．年度内を目指す．

4．学術研究部会（岡田・山田）

(1) 行事委員会（岡田）

愛媛大会の巡検での愛媛県市之川鉱山（輝安鉱，県の石）の見学について問い合わせ．巡検委員会としてはすでに決定済みのため，追加は見送り．なお，愛媛大会実行委員会から日本鉱物科学会（9/12-14，愛媛大にて開催）に巡検企画を打診し，実施を確認済み．日本地質学会は協賛学会となり，会員の参加も可能．

(2) 国際交流委員会（井龍）

・交流協定の各国地質学会にクリスマス・新年のカードを送付した．韓国及び台湾の地質学会会長より，カードが送られてきた．

(3) JIS，標準担当（中澤）

・委員長決定，検討内容を

・地層名データベース ニュース誌に紹介記事（2017年1月号）

(4) その他

5．編集出版部会（中澤・田村・小宮）

(1) 地質学雑誌編集委員会 （山路編集委員長，中澤担当）

1）編集状況報告（1月10日現在）．

2016年投稿論文 総数95編［総説17（和文17）・論説47（和文47）・報告9（和文4，英文5）・ノート3（和文2，英文1）・講座5（和文5）・口絵3（和文3）・巡検案内11］（昨年比＋22） 査読中：37，受理済み：15（うち特集号6）

・122巻12月号：論説2，報告1，ノート1，講座1 計50ページ（発行済み）

・123巻1月号：論説1，報告1，講座1，案内書1　計55ページ（1/23校了，1/31発送予定）
・2016/12/3規則改正（文献の英文併記箇所の増加）に伴う文献リストの肥大化を緩和するため，文献リスト欄の文字サイズ縮小，7.5ｐ→7ptに変更する．
・125周年記念特集号について－投稿及び編集状況の確認
　各特集世話人への編集情報提供と，各号の取りまとめ作業について
(2) アイランドアーク編集委員会 （田村）
1）編集状況
　Vol.26 Issue1（2017年1月）：IGCP特集4編，一般原稿1編（計73ページ）予定
　Vol.26 Issue2（2017年3月）：一般原稿6編（計約60ページ）予定
2）オンライン投稿の状況
　過去半年（2016.7.1 ～ 2016.12.31）の投稿数41件．うち新規投稿33件．
3）その他
・新しい誌面レイアウトに対応したTechnical Style Sheetの内容を確認し，Production Editorへ連絡した．
・Wileyより編集事務局業務委託に関する契約書追記（案）が提示された．
書面について確認し，特に投稿数（200編/年）についてはWileyに確認する．
(3) 企画出版委員会（小宮）
・探検マップ大島編については進行状況を確認する．
6．社会貢献部会（平田・杉田・廣木・辻森）
・2017年度の街中ジオ散歩は関東支部と打ち合わせ下見を行い，国分寺周辺で5月14日に実施することとした．講師：中山・山崎氏に依頼．募集様式を検討中．
・今後各支部等に，特に都市部の企画（街中ジオ散歩等）の実施を働きかける．
7．ジオパーク支援委員会（平田）
　2016年12/9　ジオパーク委員会　審査結果発表（認定・再認定）
　2016年　第17回　地震・火山サマースクール（南紀熊野）報告（報告書回覧）
　2017年8月9-10日（予定）地震・火山サマースクール
　各学会の自己資金+益城町から開催地提案，協力：熊本大学
8．地学オリンピック支援委員会（平田）
・12/18　予選会を実施　1924名　1600名受験（昨年比　200名減）　72会場
・回覧：実施報告書，未来ガイド
・国際地学オリンピック実施経費の残について，今後の使途にかかわる予定事業の報告をもとめることにする．
9．地質災害委員会（斎藤，松田達）
　防災連携体（4/15：熊本県庁，地質学会：大橋（山口大）氏が発表予定
10. 地質技術者教育委員会（山本）
11. 125周年記念事業実行委員会（緒方，渡部）
・News誌1月号に事業概要及び寄付願い，記念ロゴについての記事を掲載する．
・記念シールを作成，地質学雑誌の特集号は4月号（予定）より．
12. 県の石支援委員会（辻森，代斎藤）
・支援活動報告：取材対応状況，県の石解説書出版準備状況
・産総研　地質標本館2017年新春特別展ふるさとの新たな主役「県の石」パンフレット（写真・説明）を発行予定，他団体が原版を使用することの是非について，質問があり，産総研の印刷物をそのまま利用するなら問題ないとのこと．

以上

2017年3月4日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会　長（代表理事）渡部芳夫
署名人 執行理事　斎藤　眞

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，２冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．

現金書留または郵便振替　00140－8－28067

40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生４割引，正会員２割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ２割引

地 質 学 論 集

第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス—その意義と問題点—．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒350円

第 41 号　中部九州後期新生代の地溝．長谷義隆ほか編，192pp., 1993年６月刊，会員頒価3,100円，〒300円

第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年４月刊，会員頒価3,100円，〒350円

第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年４月刊，会員頒価2,000円，〒350円

第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒350円

第 45 号　~~シーケンス層序学—新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，~~**（売り切れました）**

第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年９月刊，会員頒価 1,900円，〒300円

第 47 号　日高地殻—マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年４月刊，会員頒価3,000円，〒350円

第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan—　岡田博有ほか編，188pp.，1997年６月刊，会員頒価 2,100円，〒350円

第 49 号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年３月刊，会員頒価 2,500円，〒350円

第 50 号　構造地質　特別号—21世紀の構造地質学にむけて—．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年７月刊，会員頒価2,500円，〒350円

第 51 号　地震と地盤災害—1995年兵庫県南部地震の教訓—．岡田博有ほか編，162pp.，1998年３月刊，会員頒価3,000円，〒350円

第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー 10pp.，1999年９月刊，会員頒価3,000円，〒350円

第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒360円

第 54 号　タフォノミーと堆積過程—化石層からの情報解読—小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒350円

第 55 号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，~~**（売り切れました）**

第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年３月刊，会員頒価2,900円，〒350円

第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年９月刊，会員頒価2,800円，〒350円

第 58 号　地震イベント堆積物—深海底から陸上までのコネクション—藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒350円

第 59 号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年５月刊，会員頒価2,400円，〒350円

リーフレットシリーズ

大地の動きを知ろう—地震・活断層・地震災害—　1995年４月発行　会員頒価200円（非会員300円）

大地のいたみを感じよう—地質汚染Geo－Pollutions 1997年２月発行　会員頒価200円（非会員300円）

大地をめぐる水—水環境と地質環境—　2001年５月発行　会員頒価300円（非会員400円）

日本列島と地質環境の長期安定性　2011年発行　会員頒価500円（非会員600円）

地質リーフレットたんけんシリーズ（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）

１．箱根火山たんけんマップ—今、生きている火山　2007年５月発行　会員頒価300円

２．屋久島地質たんけんマップ—洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい—　2009年３月発行　会員頒価300円

３．城ヶ島たんけんマップ—深海から生まれた城ヶ島—　2010年９月発行　会員頒価300円

４．富士山青木ヶ原溶岩のたんけん—樹海にかくされた溶岩の不思議—　2014年３月発行　会員頒価300円

５．長瀞たんけんマップ—荒川が刻んだ地球の窓をのぞいてみよう—　2016年２月発行　会員頒価300円

地質リーフレットシリーズ

１．箱根火山　2007年７月発行　会員価格1,000円**（同一リーフレットを20部以上購入の場合割引あり）**

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）１枚200円（非会員300円）

電子書籍シリーズ

地学を楽しく！：ジオパーク・ジオツアー・地学オリンピック　　2013年12月発行　［Kindle版/PDF版］　定価1,380円

講演要旨集ほか

第118年見学旅行案内書（2011年水戸）　　会員頒価2,800円，〒500円

第117年学術大会講演要旨（2010年富山）　会員頒価4,000円，〒500円

第117年見学旅行案内書（2010年富山）　　会員頒価2,800円，〒500円

第116年見学旅行案内書（2009年岡山）　　会員頒価2,800円，〒500円

第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　　会員頒価2,500円，〒500円

※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知，2007年札幌，見学旅行案内書は，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価１冊500円．

入 会 の ご 案 内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を一般社団法人日本地質学会事務局へお送りください.
入会には正会員1名の紹介が必要です. 近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください. また, 初年度の会費は申込書郵送時から時間の間隔をおかずに下記送金先へ速やかにご送金ください. 会員としての正式登録は, 入会承認後, 初年度会費の入金を確認した上で行い, 雑誌の送付(4月号から)を開始いたします.

申込書送付先:101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6F 一般社団法人日本地質学会
送金先:郵便振替口座 00140-8-28067 一般社団法人日本地質学会
ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキュウ)店／当座 0028067 ／一般社団法人日本地質学会 シヤ)ニホンチシツガツカイ
会費(※1)年額:正会員 12,000円 (学部学生割引＊5,000円, 院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】 ※2)
※1:学会費には地質学雑誌の購読料が含まれています.
※2:学部学生割引, 院生割引を希望される方は, 下記の割引申請欄に指導教員の署名, 捺印をもらってください.

一般社団法人日本地質学会入会申込書 Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(＊Official use only)

＊会員番号	＊会員種別 □ 正会員 (□ 学部学生割引 ・ □ 院生割引)
氏名(ふりがな) Name in Japanese	ローマ字表記 family name / first name
_____年Year_____月Mo_____日Day 生born on	Sex: □ 男 Male □ 女 Female Country:

学歴 Academic career:

_____学校 High school_____年卒業 Year completed

_____大学 University _____学部 Faculty _____年_____月 卒業(見込み)Year completed

修士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み)Year completed

博士 Doctor:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年_____月 修了(見込み)Year completed

自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code -)

電話 Phone: ファックス Fax:

所属機関名称・所属機関住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code -)
※ 郵便物がきちんと届けられるよう, ご記入ください.

電話 Phone: ファックス Fax:

e-mail Address: @

※e-mail Addressは地質学会からのメルマガ配信用, その他連絡用に登録します. 携帯電話各社のe-mail Addressを記入の場合は登録いたしません. ご注意ください.
※所属先(代表)の問い合わせ専用 e-mail Address は記入しないでください.

連絡先 Correspondence: □ 自宅 Home □ 所属機関 Office

会員名簿の掲載項目:2年に1度, 会員名簿を発行しています. 氏名・所属先は掲載必須項目です. 下記の項目について**掲載を拒否する項目には□にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**.

□ 最終学歴 □ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「〇〇大学〇〇学部」,「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)
□ 所属先住所 □所属先電話・FAX番号 □自宅住所 □自宅電話・FAX番号 □e-mail Address

紹介者名(正・院生会員) 印

Recommended by (name of member) _____ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄:運営規則に基づき, 学会費の割引申請をいたします.

上記本学の学生につき, □ 学部学生 ・ □ 定収のない院生(研究生) 〔いずれかにチェックをつけてください〕
であることを証明いたします.

指導教員 所属: **氏名:** **印**

専門部会:現在, 下記の15の専門部会があり活動しています. 専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします. 所属希望の部会を3つまで選択することができます. (該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 地域地質 2. 層序 3. 堆積地質 4. 現行地質過程 5. 海洋地質 6. 構造地質 7. 岩石 8. 火山 9. 応用地質
10. 環境地質 11. 情報地質 12. 古生物 13. 第四紀地質 14. 環境変動史 15. 鉱物資源

興味専門分野:あなたの興味専門分野を教えてください. 3つまで選択することができます. (該当する項目に〇印を付けて下さい)

1. 層位 2. 堆積・堆積岩 3. 古生物 4. 構造地質 5. 火山・火山岩 6. 深成岩 7. 変成岩 8. 鉱床地質(金属・非金属)
9. 鉱床 10. 鉱物 11. 燃料地質 12. 地熱 13. 第四紀 14. 環境地質 15. 都市地質 16. 土木地質 17. 土質工学
18. 水文地質 19. 探査地質 20. 土木工学 21. 情報地質 22. 地震地質 23. 海洋地質 24. 地球物理 25. 地球化学
26. 地質年代学 27. 地理 28. 地学教育 29. 考古学 30. その他 40. 地球惑星

＊受付(年 月 日)	＊入金(年 月 日) 振替・現金・銀行・他
＊承認(年 月 日)	＊送本(巻 号)

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6 日 ・ 23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	

（フリガナ） 口座名義人		金融機関お届け印
	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	印

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人		ゆうちょ銀行お届け印
	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号		通帳番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1 ・・・・ 0	の	

払込先口座番号	００１１０－５－５８８３０	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等

契約者番号	委託者コード	顧客コード
	1 8 4 7 6 0 0 0	0 0 0 0 0

一預金口座振替規定一　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄	（不備返却事由） 1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違 2. 記載事項等相違 店名、預金種目、口座番号、 通帳記号、通帳番号、口座名義 4. その他（　　）			
	備考			
	検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日号

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

82円切手貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町二丁目八―一五　井桁ビル内

一般社団法人 日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

キリトリ線

裏面のりしろ②

裏面のりしろ③

広告募集

ニュース誌に広告を掲載しませんか？

ニュース誌の掲載広告を募集しています．学会直接取り扱いになりますので、カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．是非ご利用ください！

	価格（白黒）	版下作成	カラー印刷
表4	60,000	+10,000	+10,000
表2	50,000	+10,000	---
表3	40,000	+10,000	---
本文頁	35,000	+5,000	---

（単位：円）

【お得な割引価格も設定しています！！】

掲載位置・サイズにかかわらず，
4回掲載一括注文：10％割引
6回掲載一括注文：15％割引
※一年度内（4～3月）もしくは一巻内（1～12月号）で一括注文頂いた場合に限ります．

申込・問い合わせ：一般社団法人日本地質学会 事務局
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp

広報誌ジオルジュ　一括割引購入のご案内

日本地質学会では広報誌「ジオルジュ」を発行しています（年2回発行．定価250円）．

博物館・学校・研究機関などで，イベントでの配布物，友の会へのプレミアグッズ，ストアなどでの販売物として，ジオルジュを利用してみませんか．部数に応じて割引価格を設定しておりますので，是非ご検討下さい．

【割引価格例】
100部：20,000円（定価2割引）
300部：52,500円（定価3割引）
これ以外についてもご希望に応じてご相談承ります．

毎号各地のジオパークの特集記事の掲載も企画しています．ジオパークの広報の一環としてもご活用ください．

最新号（2016後期号）発行

申込・問い合わせ：**一般社団法人 日本地質学会**
電話　03-5823-1150　FAX03-5823-1156　e-mail: main@geosociety.jp

2018年
日本地質学会は
125周年
をむかえます

会員の皆様からの
寄付を受付けています。

◎ 一口 5,000円(一口以上)
◎ 寄付してくださった方の氏名と口数をニュース誌, HPに掲載します。
◎ 二口以上の場合には、記念図書(2017年8月頃刊行予定)を1冊差し上げます。
◎ クレジットカードもご利用いただけます。

詳しくは、ニュース誌1月号または学会HPをご覧下さい。

一般社団法人 日本地質学会
e-mail : main@geosociety.jp　URL : http://www.geosociety.jp

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp